

拡大理事会挨拶

貴重なお時間のところから旭川の地へお出かけくださいましたことを感謝申し上げます。この会には、冒頭御紹介申し上げましたが、旭川啄木会の石山宗晏会長と石川千賀男事務局長をお迎えしております。改めて、お二人に感謝申し上げます。

この旭川で石川啄木に関するセミナーを開催できることには、格別の意味があるかと存じます。御承知のように北海道での大会・セミナーは、既に4回開催しており、今回で五度目となります。4回の大会とは、第4回北海道大会〔「石川啄木と明治北海道」(1993.7.24~26)〕、第8回釧路大会〔「石川啄木 漢民・北海道・東京」(1997.10.10~12)〕、第16回札幌大会〔「北海道は啄木をどう変えたか」(2005.10.22~23)〕、第20回創立20周年記念函館大会〔「未来への架橋 啄木との対話」(2009.9.5~7)〕であります。(＊ 実際の挨拶時には、回数を1回少なく言ってしまい、傍らの池田副会長から注意されて訂正する一幕もあった。)

また、これも御承知のように、本年度の「大会」は、九月に釧路で行うことが決定されており、その後、この旭川セミナー開催ということになりました。つまり、北海道地区で、大会とセミナーを開催するという本学会では体験したことのない開催の仕方になったのであります。この同一地区の大会・セミナーの開催、及びその調整につきましては、北畠立朴支部長や立花峰夫理事に大変な御配慮・御高配を戴きました。

さて、正式には、總會等の承認後のこととなりますが、私の方は先頃の選挙で会長として再選されました。これも後ほど、總會等の御了承を得たいと思っておりますが、池田功副会長、森義真事務局長には、再任のお願いをし、内諾を得ております。

繰り返すことにもなりますが、今年度は北海道でセミナーと大会を開くことになりました。過去4回の北海道での大会を踏まえて意味のある大会にしたいと思っております。

少し具体的に申し上げますと、昨年度の台北大会の御挨拶でも申し上げましたように、「啄木の意味、啄木を学ぶ意味、啄木を研究する意味」を吟味し、「国際」を念頭に置きながら、若い力を結集し、ホームページの活用など広報にも心がけながら、学会創設の意味を深めて参りたく存じます。

「国際」について補足致しますと、本日の議題とも重なるところですが、来年度につきましては、台湾の林水福先生からの開催希望が出されております。また、未開拓のことと致しましては、中国と欧米での大会開催の可能性を探りたいとも考えております。

どうぞ、よろしく御願い申し上げます。